

コギク新品種「小夏の恋（仮称）」の特性

研究のねらい

コギクは、本県切り花生産の主要な品目のひとつで、7・8月のお盆、9月の彼岸の時期が大きな需要期となっています。

コギクは、一般的に赤・白・黄色の3色合わせた花束で販売されることが多く、また、赤系品種は病害に弱いものや形質が良くない等の欠点を持つ品種が多いため、栽培しやすく形質の良い赤系品種の育成が強く求められていました。そこで、7月下旬頃（8月盆向け）に開花し、草姿に優れる赤系コギク新品種を開発しました。これにより、本県オリジナル品種の3色（赤、白、黄）がそろいました。

品種の特徴

- 1 花色は明るい赤紫色、葉の表面は濃い緑色、裏面はやや白みがかかった緑色です。
- 2 花房の形は円錐形で、茎の下部からの側枝の発生が少ないため、収穫調製時の作業性が良く、コギクの主要な用途である花束加工に向いています。
- 3 開花時期は、県内の標高300m前後の中山間地域で7月下旬から8月中旬、平坦地で7月中旬から7月下旬です。「小夏の風」、「小夏の月」と概ね同時期に開花します。
また、平坦地では、需要期よりも開花が早まる可能性があるため、植物成長調整剤や電照処理によって開花期を調節する必要があります。
- 4 栽培方法は、コギク一般品種に準じます。現地適応性試験における慣行栽培では、病害の発生は少なく、栽培性は良好でした。



写真1 開花状況



写真2 草姿



写真3 コギク花束3色

小夏の恋：赤
小夏の月：黄
小夏の風：白

今後の取り組み

現在、「小夏の恋（仮称）」として品種登録出願中（令和元年6月11日出願公表）です。

当面は県園芸協会に許諾し、会員に種苗供給を行います。

（執筆者：田島 明美）